

小児科だより vol.7

春生まれの子はアレルギーになりにくい？

2017.3.1 発行

こんにちは。厳しかった寒さも徐々に和らぎ、鼻がムズムズする季節になってきました。今月の小児科だよりは、近年増加傾向にあるアレルギーに関する話題を取り上げたいと思います。

『小児期の食物アレルギーの患者には、誕生月による偏りがある』ということが最近国内外の学会などで報告されています。その内容は『春生まれの子が少なく、秋生まれの子が多い』傾向があるということです。その原因として、いくつかの論文で示さ

れている一つの仮説は、皮膚のバリア障害による経皮感作が考えられています。いきなり難しい言葉が出てきましたが、経皮感作とは皮膚を通して卵や小麦が異物として認識されて、体がアレルギー抗体を作ってしまうことを言います。

どこのご家庭でも、我々が生活している環境には、様々な食物の破片（アレルギー）が散在しています。掃除が行き届いているかどうかの話ではなく分子レベルの話であり、目に見えない破片が赤ちゃんの皮膚を通して経皮感作を起こします。もともと赤ちゃんの肌が薄いことも経皮感作を起こす原因と考えられますが、乳児湿疹や皮膚の乾燥による肌荒れにより皮膚と皮膚の隙間が大きくなる場合、アレルギーがより侵入しやすくなるため皮膚感作をより起こしやすくなることが考えられています。

また大切なこととして、食べ物が皮膚から入ってくれば異物ですが、普通の人には意識せずに様々な食べ物を食べることが出来ます。これは食べることで腸が免疫を作り、アレルギーを起こさなくさせているからです。ここは大事なことです、説明すると長くなってしまうので、また別の機会にお話ししたいと思います。

ここで話をまとめてタイトルに戻りますが、『秋生まれ』のお子さんたちは色々なものを食べられるようになる前の時期（離乳食開始前）と皮膚が乾燥し肌荒れしやすい時期が重なるため、『春生まれ』のお子さんとは比べて経皮感作を起こしやすく、その結果アレルギーを発症しやすくなる、ということが考えられます。

春生まれでも秋生まれでも、アレルギーを防ぐためにはスキンケアが大切です。誤解されている方が多いのですが、スキンケアとは石鹸で何度も洗うことではありません。皮膚を強く保つために、皮膚を保湿して隙間をなくすることが重要です。乳児湿疹でお困りの方は、小児科へお気軽にご相談ください。

